

持続可能な社会の創り手の育成

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

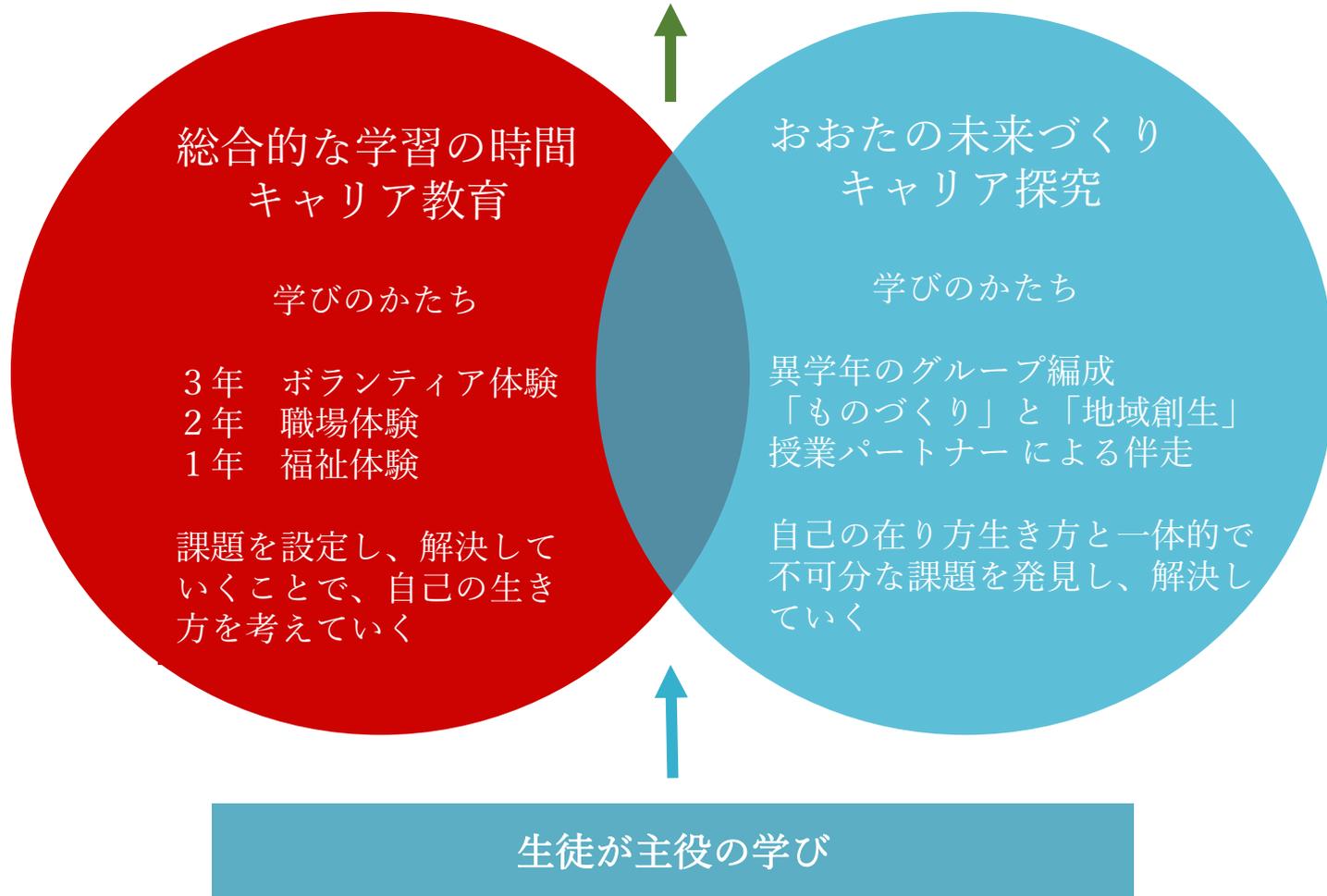


図1 キャリア教育とキャリア探究の学びのかたち

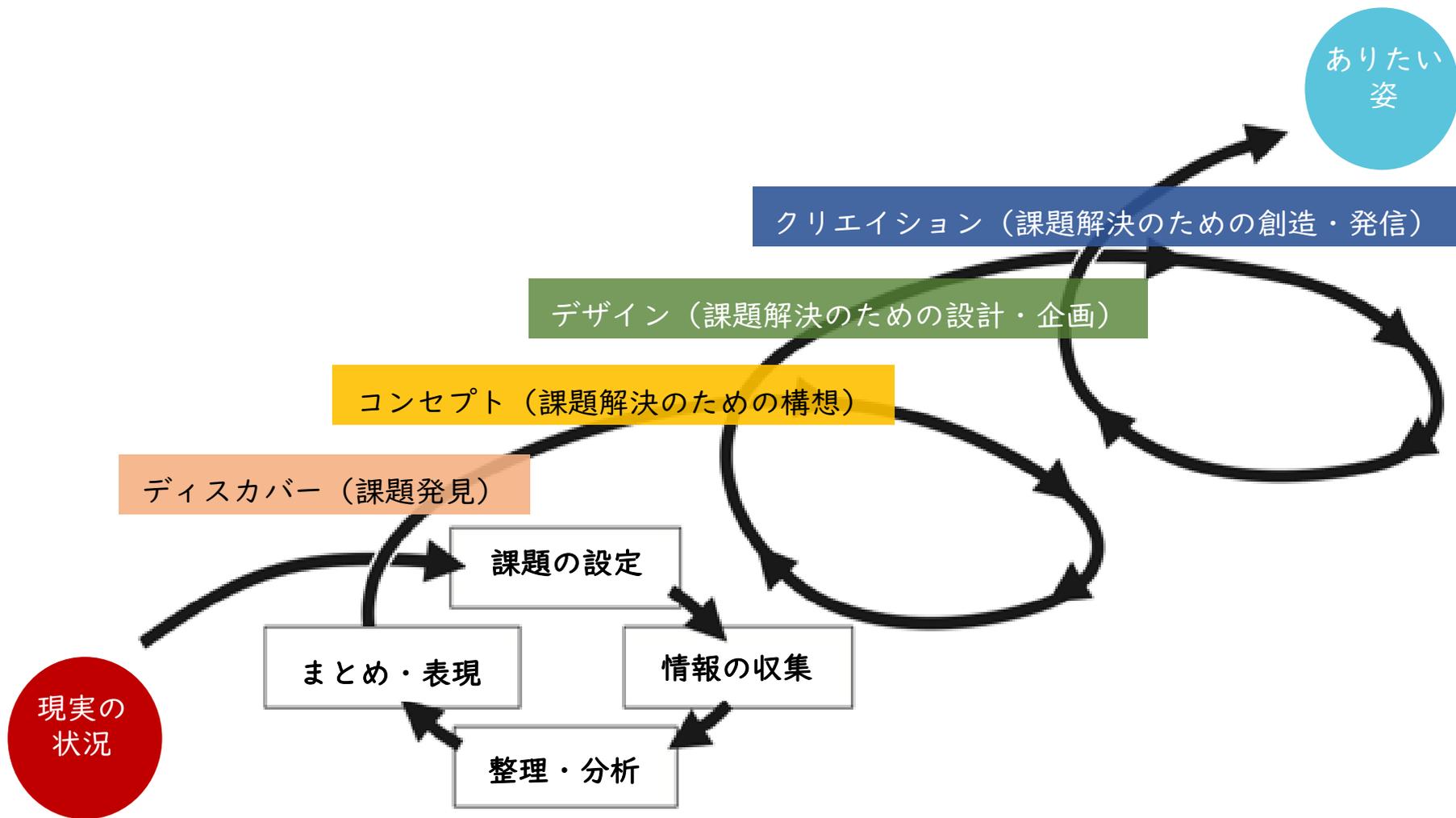


図2 「おおたの未来づくり」の学習における生徒の「ありたい姿」

Misono×STEAM×Career (MSC) は、御園中学校の探究的な学習プログラムです。MSCプログラムは、科学・技術・工学・人文社会・芸術・数学 (STEAM) を基盤とした教科等横断的な学びと、実社会の課題解決を目指すキャリア探究 (Career) を組み合わせています。MSCプログラムでは、生徒の主体性 (エージェンシー) と、仲間とともに取り組む力 (共同エージェンシー) を重視し、生徒・教師・地域の人々との協働を促します。ものづくりと地域創生に関する課題に取り組む中で、生徒の自己肯定感・自己有用感と創造力を育みます。MSCプログラムは、生徒の主体的な学びと探究を導くために、地域社会に根ざした分野と重要なスキルまたは視点を組み合わせた5つの主要なテーマ (フィールド×スキル) を軸に構成されています。テーマ1「ものづくり×イノベーション」、テーマ2「地域創生×コンサルティング」、テーマ3「アントレプレナーシップ×デザイン」、テーマ4「外国語×コミュニケーション」、テーマ5「食×ウェルネス」、これらのテーマの課題解決に取り組むことで、生徒は学びを自分ごととして捉え、創造力を高めるとともに、地域社会をよくするために必要なスキルを身に付けます。

テーマ

ものづくり × イノベーション
Manufacturing × Innovation

地域創生 × コンサルティング
Regional Revitalization × Consulting

アントレプレナーシップ × デザイン
Entrepreneurship × Design

外国語 × コミュニケーション
Foreign Languages × Communication

食 × ウェルネス
Food × Wellness

プロジェクト



Project 1 ゼロからイチへ！つくろう！理想の未来プロジェクト
社会課題を見つけ、それを改善していくことに興味がある人におすすめ
例) 科学、技術、人文社会、デザインなど、専門的な視点から自分たちで考えます。

Project 2 蒲田の魅力をお届けします。蒲田Happinessプロジェクト
テーマに沿って、アイデアを膨らませていくことに興味がある人におすすめ
例) 地域の創生を目指し、あいさつ運動や清掃活動、巨大アート制作等に携わります。

Project 3 アイディアを形にします。アントレプレナーシッププロジェクト
“アイデアを形にすること”や、“企画すること”に興味がある人におすすめ
例) 企業と共同して、新たな商品の開発や、広報活動等を行います。

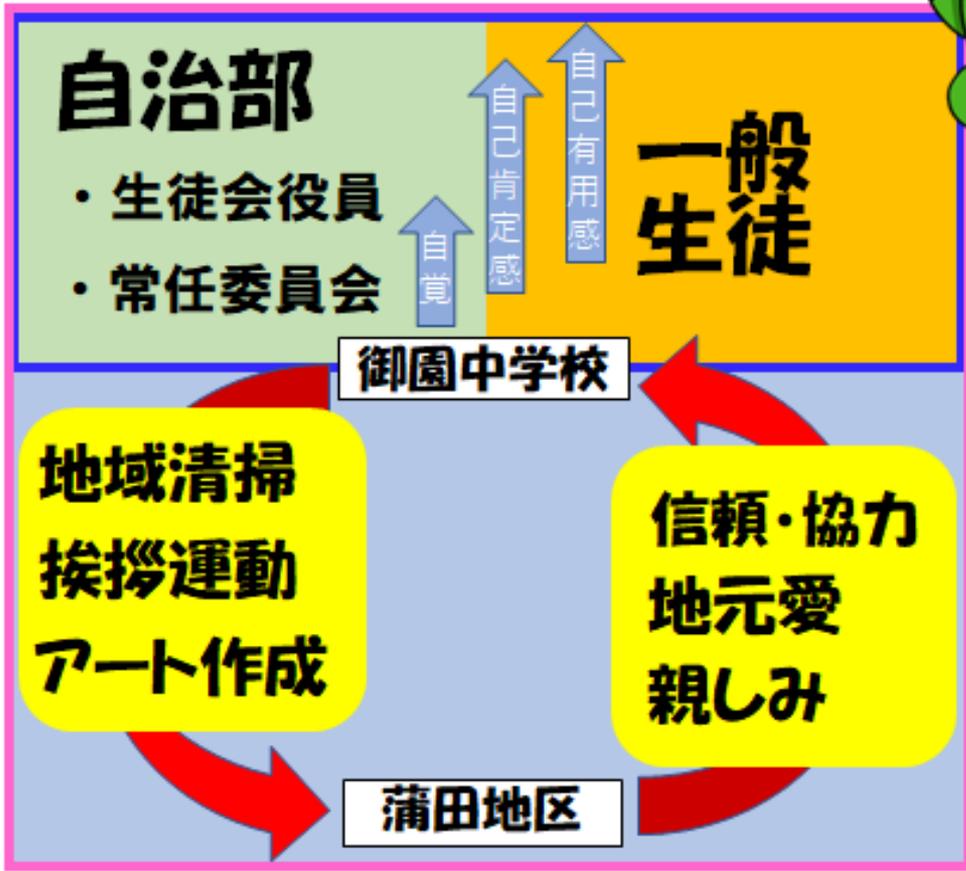
Project 4 海外生徒との交流を実現します。国際理解・国際交流プロジェクト
世界中の人とつながりをもつことに興味がある人におすすめ
例) 国際理解の目的や意義を考え、海外生徒との交流実現を目指します。

Project 5 人も地球も健康になる食を考えます。未来を創り出す！食プロジェクト
“食”に興味がある人、“食べ物”について深く考えたい人におすすめ
例) 大学と共同して、新たな学校給食メニューの開発に携わります。

R7 蒲田Happinessプロジェクト



R8~



愛される学校

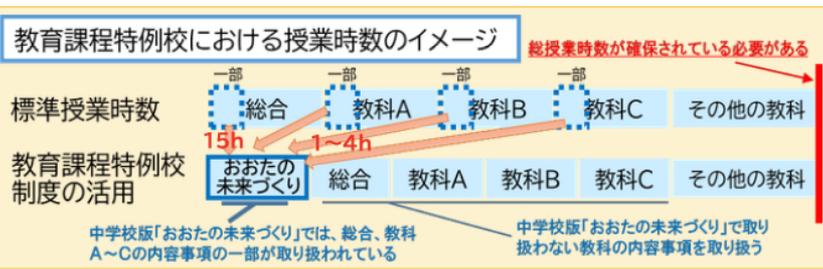
他校と連携



大田区内の他地域へ発展

御園中学校の特色ある教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの推進

- (1) おおたの未来づくり（キャリア探究）の授業時数等の取扱い
総合的な学習の時間を活用し、年間22～27単位時間で実施している。今後は一部の教科から1～4単位時間をおおたの未来づくり（キャリア探究）の授業時数として振り替える。振り替えた一部の教科の授業時数、内容事項は、おおたの未来づくり（キャリア探究）の学習の中で補完して取り扱う。
- (2) 総合的な学習の時間（キャリア教育）の授業時数と内容の取扱い
総合的な学習の時間は年間23～43単位時間で実施している。福祉、職場体験、ボランティアなど、人、社会、自然に直接関わる体験活動を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成している。今後は一部の教科と同様に総合的な学習の時間の一部の授業時数、内容事項は、おおたの未来づくり（キャリア探究）の学習の中で補完して取り扱う。
- (3) おおたの未来づくり（キャリア探究）における授業パートナーによる伴走
外部講師を活用し、民間企業や大学など、授業パートナー（外部授業協力者）による伴走（フィードバック・評価・協働）を生徒主導の探究的な学習に取り入れている。



中学校学習指導要領解説総則編

第3章 教育課程の編成及び実施

第2節 教育課程の編成における共通的事項

3 教育課程の編成における共通的事項

(2) 授業時数等の取扱い

別表第2は、各教科等のそれぞれの授業時数だけでなく、各学年の総授業時数も標準として定めている。したがって、個々の教科等の授業時数と同様に総授業時数についてもその確保を図ることが求められる。各学校においては、このような考え方に立って、授業時数を適切に配当した教育課程を編成するとともに、その実施に当たっても、実際に必要な指導時間を確保するよう、学年や学期、月ごと等に授業時数の実績の管理や学習の状況の把握を行うなど、その状況等について自ら点検及び評価を行い、改善に努める必要がある。

4 授業の1単位時間 第1章第2の3の(2)のウの(ア)

各授業時数の1単位時間を定めるに当たっては、学校教育法施行規則第73条別表第2に定める授業時数の1単位時間は50分とするとの規定は従前どおりとしており、総則でいう「年間授業時数を確保しつつ」という意味は、あくまでも授業時数の1単位時間を50分として計算した学校教育法施行規則第73条別表第2に定める授業時数を確保するという意味であることに留意する必要がある。すなわち、各教科等の年間授業時数は各教科等の内容を指導するのに実質的に必要な時間であり、これを確保することは前提条件として考慮されなければならないということである。また、具体的な授業の1単位時間は、指導内容のまとまりや学習活動の内容を考慮して教育効果を高める観点に立って、教育的配慮に基づき定められなければならない。さらに、授業の1単位時間の運用については、学校の管理運営上支障をきたさないよう教育課程全体にわたって検討を加える必要がある。

⑤ 短い時間を活用して行う指導 第1章第2の3の(2)のウの(イ)

(イ) 各教科等の特質に応じ、10分から15分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において、当該教科等を担当する教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること。

⑦ 時間割の弾力的な編成 第1章第2の3の(2)のウの(エ)

(エ) 各学校において、生徒や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。

時数削減の例	第1学年	第2学年	第3学年
国語	136(-4)	136(-4)	102(-3)
社会	102(-3)	102(-3)	136(-4)
数学	136(-4)	102(-3)	136(-4)
理科	102(-3)	138(-2)	136(-4)
音楽	44(-1)	35	35
美術	44(-1)	35	35
保健体育	102(-3)	102(-3)	102(-3)
技術・家庭	68(-2)	68(-2)	35
外国語	136(-4)	137(-3)	138(-2)
中学校版「おおたの未来づくり」	35	35	35
特別の教科「道徳」	35	35	35
特別活動	35	35	35
総合的な学習の時間	40(-10)	55(-15)	55(-15)
合計	1015	1015	1015

※表中の()内の数字は、学習指導要領に示されている授業時数との差

キャリア探究（MSC）プログラムを実施している。科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、人文社会、芸術・デザイン（Liberal Arts、Arts）、数学（Mathematics）及びSDGsを基盤とした教科等横断的な学習（STEAM教育）と、実社会の課題解決を目指す探究的な学習を組み合わせている。「ものづくり×イノベーション」「地域創生×コンサルティング」「アントレプレナーシップ×デザイン」「外国語×コミュニケーション」「食×ウェルネス」の領域ごとにプロジェクト（異学年チーム）を構成し、地域社会の課題解決に取り組んでいる。